

2 / 3 (±)

安息日論争

マタイによる福音書一二章9〜21節

人間は羊よりもはるかに優れた者ではないか。だから、安息日に善いことをするのは許されている。(12)

ファリサイ派の人々が主イエスに「安息日に人を癒やすのは、許されていますか」(10)と質問しました。これに対してイエスは、「自分の羊が安息日に穴に落ちたなら、手をかけて助けられないか」と逆に尋ねられます。自分の財産を失わないためなら、安息日であっても一頭の家畜を助けようとするのに、他人のことにになると、「安息日の教えを守れ」と主張する彼らの偽善性をイエスは衝かれました。一人の人間の価値は、羊などとは比べものにならないほどに貴重ではないか、それゆえ助けてあげるのは当然ではないかと訴えられたのです。このように、人を生かすはずの宗教が、人を殺すことにもなりかねない危うさを抱えています。宗教の名のもとに、良識を否定するような教えには気をつけなければなりません。健全な宗教というものは、常に人を生かすものだからです。